



新春対談

## 国として 尊敬される 文化の力

冷泉 人類の文化は、世界中に出して詠む詩から始まるんですね。アルタミラなど絵画からスタートしたと思われがちですけれど、日本人には万葉の時代から、なぜか五・七のリズムがピッタリくるんですね。今も標語、演歌、みんな五・

歌のお話をお聞かせください。

中尾 藤原定家の直筆『古今和歌集』など国宝の古典籍を守り続けていらっしやいます。私も若いころから歌を詠んでおりますが、今日は冷泉家の歌道、和歌のお話をお聞かせください。

冷泉 京都御所の向かいで、今は三方を同志社大学に囲まれたこの土地に四百年動かずにおります。江戸時代に火事に遭いまして、築は二百年です。

冷泉 京都御所の向かいで、今は三方を同志社大学に囲まれたこの土地に四百年動かずにおります。江戸時代に火事に遭いまして、築は二百年です。

中尾 あのとときは中尾さんのお孫さんが、平家物語を暗唱されました、朗々と。中尾 そうでしたね。さて、冷泉家は貴実子さんと二十五代目、八百年続いている、和歌の家ですね。現存する唯一の公家屋敷、重要文化財、そこでお話することができて感激しております。

冷泉 ありがとうございます。

中尾 お久しぶりです。五年前、拙宅で「和歌に詠まれた日本古来の風習」について講演いただいた以来、一度こんな機会をもちたいと思っていました。今日はありがとうございます。

## 八百年続く和歌の家

冷泉 あのとときは中尾さんのお孫さんが、平家物語を暗唱されました、朗々と。中尾 そうでしたね。さて、冷泉家は貴実子さんと二十五代目、八百年続いている、和歌の家ですね。現存する唯一の公家屋敷、重要文化財、そこでお話することができて感激しております。

### 冷泉家の歴史

冷泉家は鎌倉時代後期に活躍した冷泉為相(ためすけ)を初代とする。遠祖はこれをさかのぼる平安時代に栄華を築いた藤原道長の末子、長家(ながいえ)。長家は和歌に秀で、その子孫にも多くの歌人が生まれた。中でも平安時代末期に才を発揮したのが藤原俊成(しゅんぜい)であり、古典を踏まえながらも余情豊かな新しい歌風を打ち出した。その子定家(ていか)は父の境地を発展させ、妖艶で幻想的な和歌を詠み、「百人一首」の選者としても知られる。その子為家(ためいえ)も父の歌学・技法を継承した。俊成・定家・為家は勅撰和歌集の選者である。為家の子として生まれたのが冷泉家初代為相である。



冷泉 和歌の文化は、世界中に出して詠む詩から始まるんですね。アルタミラなど絵画からスタートしたと思われがちですけれど、日本人には万葉の時代から、なぜか五・七のリズムがピッタリくるんですね。今も標語、演歌、みんな五・

歌のお話をお聞かせください。

中尾 藤原定家の直筆『古今和歌集』など国宝の古典籍を守り続けていらっしやいます。私も若いころから歌を詠んでおりますが、今日は冷泉家の歌道、和歌のお話をお聞かせください。

冷泉 京都御所の向かいで、今は三方を同志社大学に囲まれたこの土地に四百年動かずにおります。江戸時代に火事に遭いまして、築は二百年です。

冷泉 京都御所の向かいで、今は三方を同志社大学に囲まれたこの土地に四百年動かずにおります。江戸時代に火事に遭いまして、築は二百年です。

中尾 あのとときは中尾さんのお孫さんが、平家物語を暗唱されました、朗々と。中尾 そうでしたね。さて、冷泉家は貴実子さんと二十五代目、八百年続いている、和歌の家ですね。現存する唯一の公家屋敷、重要文化財、そこでお話することができて感激しております。

冷泉 ありがとうございます。

中尾 お久しぶりです。五年前、拙宅で「和歌に詠まれた日本古来の風習」について講演いただいた以来、一度こんな機会をもちたいと思っていました。今日はありがとうございます。

冷泉 あのとときは中尾さんのお孫さんが、平家物語を暗唱されました、朗々と。中尾 そうでしたね。さて、冷泉家は貴実子さんと二十五代目、八百年続いている、和歌の家ですね。現存する唯一の公家屋敷、重要文化財、そこでお話することができて感激しております。

七のリズムです。

中尾 そう、万葉集がそうですね。八世紀、大伴家持が越中の国(富山)に赴任して多くの歌を詠んでいます。万葉集の中には越中時代に詠んだものが二二三首もあるんです。

冷泉 とところが奈良朝の時代には、中国文化一辺倒、遣唐使も中国の言葉が話せましたし、宮中では杜甫や李白を真似て漢詩を作っていました。平安遷都以後、国風文化が興り日本人は五・七五のリズムを取り戻すわけです。

中尾 とり戻して和歌のはじまりですね。冷泉 やがて、漢詩の五言絶句、七言絶句を翻訳したような大和歌ができる。それが和歌の始まりです。『和漢朗詠集』は過渡期のもの。こうして和歌が独立して勅撰和歌集、古今和歌集、新古今和歌集となり室町時代まで編み続けられます。天皇が編纂する最高の文学書、それが和歌集でした。

## 和歌の美意識は型の中に

中尾 当時の和歌は「うたを詠む」だけでなく、いろいろ難しいしきたりがあったのでしようね。

冷泉 和歌は天皇の御前で二十人足らずが一つの題で詠う「座の文学」です。新年であれば初春の慶びを交し合う。

新春対談

# 国として 尊敬される 文化の力

藤原俊成、定家の流れをくむ冷泉家の文化継承に力を注ぐ冷泉貴実子氏。  
冷泉家二十四代当主冷泉為任氏の長女で、二十五代当主冷泉為人氏の妻である。  
冷泉家の「御文庫」には、膨大な数の和歌に関する典籍が収められ、国宝五件、重要文化財四十七件が指定されている。  
冷泉家にインテックCEOの中尾哲雄が訪問し、和歌について、和の伝統について、変わりゆく京都について語りあった。



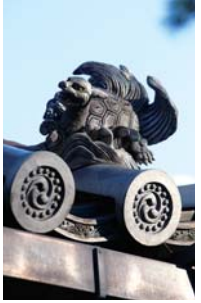
冷泉家時雨亭文庫  
常務理事

冷泉 貴実子氏

聞き手

株式会社インテック  
代表取締役CEO

中尾 哲雄



新春対談

## 国として 尊敬される 文化の力

### 冷泉 貴実子氏 (れいぜい きみこ)

冷泉家時雨亭文庫 常務理事

1947年 京都市生まれ

京都女子大大学院修士課程修了

専門は日本近世公家史

冷泉家24代当主の故・冷泉為任氏の長女で、25代当主冷泉為人氏の妻。住まいの「冷泉家住宅」は1790年の建築、現存する唯一の公家屋敷で国の重要文化財。1994年から2000年にかけて「平成の大修理」が行われた。



貴族の集まりですから晴れの儀式ですし、建前の儀式です。私情をあらかじめにするのは、大変下品なことでした。洗練された言葉、雅な言葉が成長していくわけです。

**中尾** 私情をあらかじめにしない。そこに和歌と短歌の違いがあるのかな。

**冷泉** そのとおりです。明治維新、日本は文明開化で芸術を受け入れました。芸術とは自我を表すもの、写実です。現代短歌は芸術の一分野ですから、私とあなたの違いをいかに表すかなのです。和歌は、座の中で同じ一つの主題を詠むのです。

**中尾** 和歌は写実である必要はない。「梅には鶯」、そして決められた装束、声

と思います。

**中尾** もし単に、歌人俊成そして定家であったならば…。

**冷泉** 定家直筆の古今和歌集も、いまは日本に残っていないかもしれない。明治時代に国宝級のものが海外に持ち出され、第二次世界大戦のあとには、日本の文化は値打ちを失っていました。そんな時も、神さんのパチ当たると信じていたので残してこれたのです。「神さんのパチ当たる」は、重要な日本の文化財保護の標語になると思います。

**中尾** 神様として祀られる定家も、実は結構人間臭いところがあるんですね。

**冷泉** つくりあげた和歌の世界と現実の生活は離れているのです。「春の夜の夢の浮橋とだえして峰にわかるる横雲の空」という定家の歌があります。この時定家は恋をしていたのだからと私たちは思いがちです。ただ、残っている和歌の九十九パーセントは題詠です。恋という題が出ればその和歌を詠む。俊成も定家も現実の生活を詠んだ歌は一首もないと思っただいたってもよいのです。

**中尾** 現代短歌だったらそれはあまりない。定家は美しい歌を詠む一方で出世争いをする。

**冷泉** そうなんです。そこを反映しないと、ころがロイヤル・カルチャーなんでしょう。  
**中尾** 若いころ『十六夜日記』を読みま

を出してうたう儀式的感じがしますね。  
**冷泉** 「梅に鶯」、そんなうまいこと平安時代にも梅の枝に鶯は来なかったはずですが。ただ、日本人は「梅に鶯」という言葉に春を感じる伝統文化を持っているのです。見たか、聞いたかを問うのではなく、「梅に鶯」が春を知らせる型なのです。それを日本人は美しいと感じてきたのでしよう。

お茶会でも新春ならではの決まりごとがあります。梅があり、柳があり、萌えいずる早蕨さむらひがありと。正に日本の決めた春の型です。そこには木瓜ぼけもありませんし、チューリップもありません。

**中尾** 俳句も座の文学であり、和歌から影響を受けた季語がありますね。

**冷泉** 和歌の一つ、連歌の中の最初の発句がまさに俳句となりました。俳句も茶道も能も、日本の文化のほとんどが和歌に由来します。

**中尾** 明治時代からの芸術は、和の型へのアンチテーゼですね。

**冷泉** アンチテーゼです。日本の学校教育では型の文化は教えません。日本画の授業もあります。型を教えずになつて、百数十年。日本が失ったものかもしれません。

**中尾** 和歌では型の中に日本人は美意識を育んだわけだ。花札の二月は「梅に鶯」、十月は「紅葉に鹿」と。

した。その背景には、わが息子に冷泉家を相続させるために、阿仏尼が幕府のある鎌倉に赴き訴訟を起こしたこと、その折の紀行文であったこと、貴実子さんのご本を読んで知りました。

**冷泉** 後鳥羽天皇や定家さんが生きておられた時でも、都は死体が累々としていました。あつちで人殺し、こつちで火事、泥棒も入り放題。そんな時代に和歌をつくり続けた。心底つらい時に、いつときでも花鳥風月に心を遊ばせることで、美意識の中で、ストレスを解消していたのかもしれない。

### 神さんという意識が残した

**中尾** 八百年、冷泉家が脈々と受け継

**冷泉** 「奥山に紅葉踏みわけ鳴く鹿の声きく時ぞ、秋は悲しき」から来てるわけです。奥山で紅葉を踏んで鳴いている鹿を、誰も見てないんですよ。

**中尾** 鹿は一年中見られるのに、秋と決める。見たか、聞いたではなく、「紅葉に鹿」という秋を感じる美が、まずありませんね。

### 心底つらい時

### 花鳥風月に心を遊ばせる

**中尾** 貴実子さんにとって藤原俊成、定家はどのような存在でしょう。

**冷泉** 子供の時には「シユンゼーキョー」、「テイカキョー」という神さんがいはるんやと思っただけです。実在の人であるというのを知ったのは、ずいぶん後になってからのこと。神と祀ったところに今まで生き続けてきた冷泉の文化があるのだ



がれてきたことについてどんな思いでいらつしやいますか。

**冷泉** どなたにも今があるということ、は、八百年前の先祖がいらつしやるということです。藤原定家の子孫も、私と同じ親等である人はこの世の中にも何万人といらつしやるはず。あの時代、西行もいた、有名な歌人もたくさんいた中で、結局物が残ったか、残らなかったか、そこだけです。

**中尾** 誰が残したかというところ。  
**冷泉** やつぱり神さんという意識が、冷泉の家を残したのだと思います。

**中尾** それを意識された冷泉家の方々がまた、凄い。

**冷泉** そうしてもう一つ、天才が出なかったことでしょう。子孫の中には鈍才もい





なかった。中流の上、一流の下というのでしようか。前の人を乗り越えてこそ天才ですから。

**中尾** 俊成卿、定家卿を超える天才が出ていたら。

**冷泉** 断絶していたと思います。天才は出なかつたけれども、ただ、俊成、定家を超える力が自分には無いということに悟るだけの力はあった。それって凄いことかもしれない。日本の私たちが忘れてしまった重要なことだと思います。

### 行政が本気で守らなければ

**中尾** 日本にいろいろな物がなくなったお話をされましたが、季節感そのものも最近なくなつたと思います。いかがでしょうか。

**冷泉** 日本の季節感というのは、暑さ寒さではなく「光」だと思います。日本人はその季節を型として残してきたのですね。暖房が入っていても、冷房の中においても、その型の文化を残すことが日本なのでしよう。

**中尾** 東京のビル街で年の半分を、富山の田舎で半分、交互に行き来していますが、東京には季節感、そして型もなくなつてきました。田舎にはまだそれがあります。

**冷泉** 「そうだ、京都へ行こう」といつて、

実はこの愁いのいっぱいある世の中で暮らす。ただ、心だけは理想の世界にちよつとだけ行つていたいというのが、日本的なんでしょうね。

**中尾** なるほど。貴実子さんのお考え、よくわかりました。これからの日本人々にメッセージをお願いします。

**冷泉** 私は、日本は今後大丈夫なんだろう。三十年後はどうなるのだろうかと思えます。経済もとても重要です。いまや日本人は世界中どこでも歩き回れるというのは、まさに日本の経済が私たちを支えてくれているからだと思えます。でも、最終的に国が尊敬される立場にあるというのは、経済力を背景にした

京都には年間五千万人もの観光客がいらつしゃいます。「みんな何しに来はるのかな」と、私は真から思うんです。紅葉も桜も、ほかでも美しいのです。では、なぜ京都に来られるかという、今お話ししたような「型の季節の美の残り香」みたいなものが、ここにはちよつとはあるんでしょう。加茂川が流れているといえ、どんな姿であろうか加茂川なんやと。長い伝統の美を感じられるのでしよう。

**中尾** 京都の街についてはいかがお考えですか。

**冷泉** 私どもの冷泉家は、古い家を残すことができた一つの成功例でしょう。重要文化財となり、財団法人で運営しています。ただ、古いお家をお持ちで「潰したくはないが相続税が大変なので」という方も多くいらつしゃいます。京都の街は、本気で行政が守つて動かなければ、このままではなくなりそうです。

**中尾** ヨーロッパには相続税がない国もありますね。だから古いお城もずつと引き継いでいけるのです。

**冷泉** 国が根本的な考えをはつきりさせない限り、放つておけばなくなります。

**中尾** 京都の街もそういう意味では、失つてきている物も多いでしょう。

**冷泉** とても多いですよ。日々なくなつていきますね。

**中尾** アメリカも大切と考えて、爆弾を

政治力もありますが、やっぱり文化の力ではないかと。

**中尾** 経済が人々の生活を支えていることは確かです。学問、科学が基盤となつて産業構造はできあがつている、そして生活、文化を支えていると思つてきました。でも違うんですね。知的生活、文化を基盤として産業構造は成り立っているんです。一国の産業構造高度化のレベルを決めるものは、その国の文化レベルだと思うようになりました。根底に文化です。

**冷泉** 経済だけが発展した国というのは、だめだと思います。

**中尾** だめですね。一致しました。さて、冷泉家第二十四代当主のご長女で、二

落とさなかつたこの街から、どんどん失われていくとすれば、悲しいです。

### 歴史や伝統が支える経済

**中尾** ところで、短歌の選者もしていらつしゃるとは、まったく知りませんでした。

**冷泉** 私は、皇室の歌会始も、ちよつと和歌的な要素もあつたら良いのと思つています。

**中尾** 現代短歌という以上に、生活短歌のようになってきたのかな。

**冷泉** そうでないかと一般の方々の応募がないのでしようけどね。

**中尾** 失つていく物は季節感とともに、例えば、日本人が持つていた愁いという気持ちもそうです。春愁という季語が俳句にはありますが、あまり詠まれなくなつていきます。五木寛之氏が「愁いがなくなつていく時、日本がなくなる」といつています。

**冷泉** 愁いというのは、例えばお茶。現世を逃れ、山荘を築き、自然と共に花を見、紅葉を見、月を見ているのが理想の世界なんです。人はそれを真似して、わざわざ町の中で柴垣を築き、藁の屋根を築き、山荘を真似するわけです。自然と一体化し、現世を逃れて山の中に棲むことに日本人は憧れる。けれど、現

十五代当主夫人として、私たちから見ると、憧れ、それでいて大変だろうなと思つたこのポストを、どういった感覚で生きてこられましたか。

**冷泉** いい加減で、ほとんど何も考えてないです。

**中尾** そうですか。肝が随分座つていらつしゃる。よくやつていらつしゃいましたよ。最後に新春を寿ぐ和歌を頂戴できますか。

**冷泉** それでは、  
うぐいすの 初音の 渡るさ庭辺に  
雪の下より 匂ふ白梅

今後とも宜しくお願ひ申し上げます。  
**中尾** 今日はありがとうございました。

